

KAMAISHI CITY PLAN 2021-2030

第六次

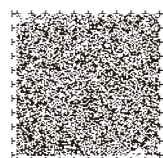
釜石市総合計画

概要版

一人ひとりが学びあい

世界とつながり未来を創るまちかまいし

Uni-Voice



このコードは、音声コードです。計画の内容を音声で聞くことができます。

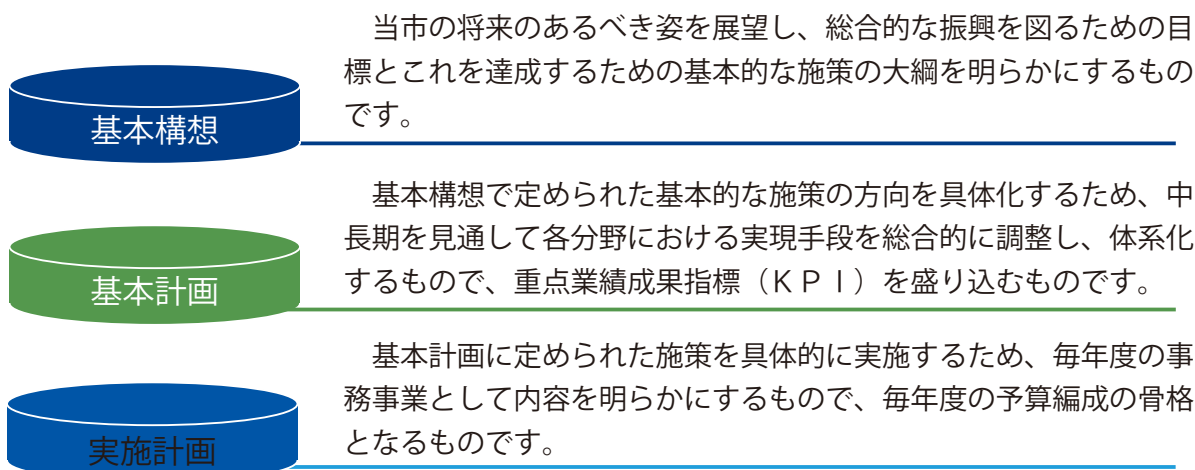
第六次釜石市総合計画を策定しました

第六次釜石市総合計画の役割

- ①当市の行財政運営の最高指針として、基本構想に定められた将来展望及びそれを達成するための基本目標を具体化するため、各分野における具体的施策を総合的かつ体系的に明らかにするものです。
- ②市民及び企業・団体等に対しては、市政の方向性を示し、協働によるまちづくりを推進するため、自発的な取組と参画を期待するものです。
- ③国や県、周辺市町村などに、当市のまちづくりの方向性を示すことにより、計画実現に向けて理解を求め、連携してまちづくりに取り組むための役割を持ちます。

総合計画の構成

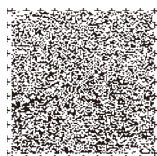
総合計画は、基本構想、基本計画及び実施計画の3部構成です。



総合計画の期間

基本構想、基本計画及び実施計画について、それぞれ以下の計画期間で策定するものです。

2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
令和 3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度	9 年度	10 年度	11 年度	12 年度
基本構想（令和 12 年度までの 10 ヶ年計画）									
基本計画（令和 12 年度までの 10 ヶ年計画）									
※施策の達成度や社会状況の変化を踏まえ、必要に応じて中間年で見直しを行います。									
実施計画									
	実施計画								
		実施計画							
3 年間単位で 1 年ごとのローリング									



目指す釜石の将来像

10年後のまちのあるべき**状態**を表す将来像

一人ひとりが学びあい

世界とつながり未来を創るまちかまいし

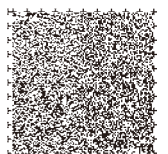
10年後のまちのあるべき姿を実現するための**姿勢**を表す将来像

**～多様性を認めあいながら
トライし続ける不屈のまち～**

東日本大震災からの復興やラグビーワールドカップ 2019™ 日本大会岩手・釜石開催のプロセスにおいて、日本中・世界中とのつながりを育む機会に恵まれました。これらを生かし、更に新たな世界を広げることで、一人ひとりの可能性、地域の可能性を広げ、希望が連鎖し、活力にあふれる未来を創り続けます。

将来像に掲げる「学ぶ」とは、「力を新たに身につけ、新たな世界を広げること」です。一人ひとりが学びを通じて成長する喜びを感じ、学びあうことによってより多くの心に火を灯し、やがて地域全体に広がることで、学ぶこと即ち「新たな世界を広げること」の幸せを実感できる地域の構築を目指します。

様々な人、様々な生き方や働き方を尊重し、多様な価値観を認め合うこと、様々なことに挑戦し、決してあきらめないことを市民の基本姿勢としながら、時代の変化にしなやかに対応し、「一人ひとりが学びあい 世界とつながり未来を創るまちかまいし」の実現に向け、全市民参加で取り組んでいきます。



まちづくりの基本理念

東日本大震災からの復興完遂後の新たな地域社会を作りあげていくうえで私たちが目指すべきことが三つあると考えます。

一人ひとりの幸せの実現

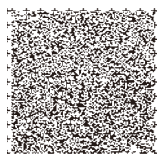
一人ひとりが生きがいを持って安心して暮らせるよう、その地域に住む人それぞれが主体的に取り組み、人と人とのつながりの中で、学びあいながら住まう幸せを実感できる地域を目指します。

危機対応と希望の追求

これまでも幾多の災害や経済的な危機に直面してきましたが、その都度「撓まず屈せず」の精神で乗り越えてきました。これから発生する新たな危機にも、過去の経験に学び、しっかりと向き合い、怯むことなくあらゆる分野で挑戦し続けられ、次の世代にも希望ある地域を目指します。

釜石発の新しい価値観

豊かな山や海、先人たちがこれまで培ってきた輝かしい歴史、東日本大震災からの復興のプロセスを通じて得た世界中の人とのつながりや絆など、釜石にしかない宝があります。豊かな自然に囲まれながら多様なつながりの中で、一人ひとりが自分らしい生き方の価値を見出し、それを地域全体で認め合うことの価値観が大切です。「人がまちをつくり、まちが人をつくる」循環の中で、そうした価値観が育まれる地域を目指します。



こうしたまちづくりに一丸となって取り組み、新しい時代を切り拓いていくことを本計画における基本理念とします。

まちづくりの基本方向

まちづくりの基本目標

あらゆる人の幸せをみんなで考えつくるまち

人と自然が共存し安心して暮らせるまち

未来をつくる人と産業が育つまち

地域と人のつながりの中でみんなが育つまち

過去に学びみんなが命を守れるまち

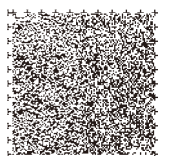
計画の推進

全市民参加でつくるまち
(協働によるまちづくりの推進)

多様な連携と交流によるまち
(地方創生・多文化共生・広域連携の推進)

効率的・安定的な行財政運営ができるまち
(行財政改革の推進)

将来像を実現するために、「計画の推進」を各分野に共通する基本的な考え方として、まちづくりの基本目標に向かい、施策を実施してまいります。





計画の推進



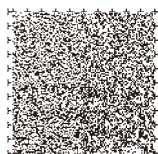
かまいし未来づくり委員会によるまちづくりに関するワークショップ

基本構想を推進し、将来像を実現していくためには、少子高齢化と人口減少、市民ニーズの多様化、厳しい財政状況などを踏まえながら、取組を進めていく必要があります。

このため、第六次釜石市総合計画においては、市民と行政による協働のまちづくりを進めるとともに、相乗効果を生む多様な連携と交流の推進を図り、徹底した行財政改革を進め、社会情勢や経済状況の変化に対応できるまちづくりに努めます。



釜石鵜住居復興スタジアム
座席シート防腐剤塗布ボランティア活動



全市民参加でつくるまち

- みんなが参画できるまちづくりの推進
- 地域のアイデンティティ形成

多様な連携と交流によるまち

- 多様な人材・機会の還流
- 世界とつながる三陸の交流拠点

効率的・安定的な行財政運営ができるまち

- 行政サービスの最適化と利便性向上
- 行政運営を支える職員の人材育成と組織づくり
- 財政の健全性の確保

◆ ◆ ◆ 重点施策 ◆ ◆ ◆

少子化対策、移住定住の推進

出会い・結婚・出産・子育ての各ステージに応じた切れ目のない支援策を講じて、少子化に歯止めをかけるとともに、市民が暮らしやすく、将来にわたって暮らし続けたいと思えるまちづくりと移住希望者のニーズに的確に応えられる体制を整備します。併せて、高等教育機関等と連携した若者の定着に向けた取組を推進します。



第1章 〈保健福祉〉

あらゆる人の幸せを みんなで考えつくるまち



いきいき 100 歳体操リーダー交流会

誰もが安心して子育てができるよう相談機能及びサポート体制の充実を図るとともに、親同士あるいは世代間の交流の場となるような居場所づくりを進め、地域の中で豊かに子育てできる環境づくりを推進します。また、ライフサイクルに応じた健康づくりや介護予防、個性や能力に応じた活躍の場づくりを地域で一体的に取り組むことで、健康寿命の延伸を図り、年齢や経済状況、障がいの有無などに関わらず、「あらゆる人の幸せをみんなで考えつくるまち」を築きます。

◆ ◆ ◆ 重点施策 ◆ ◆ ◆

健康寿命日本一へのトライ

地域や年齢を越えて、誰もが自分らしく、身体的な健康寿命を延ばしていくだけではなく、社会活動や個々の行動の中で健康への関心を高め、脳卒中死亡率最下位からの脱却、がんや心疾患の死亡率の低下を目指した取組を推進します。

地域で支え、子どもが安心して
生活できるまちづくり

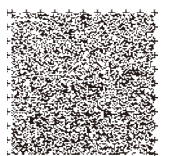
- 安心して子育てできる体制の充実
- 地域の中で豊かに子育てできる環境づくりの推進

みんなで健康になれるまちづくり

- 健康づくりと生活習慣病予防・重症化予防
- 保健福祉・医療体制の充実

共に見守り支え合い、
包括的支援によるまちづくり

- 釜石版地域包括ケアシステムの充実
- 支え合う地域共生社会の実現
- 安心して生活できる体制の充実





第2章 〈生活環境〉

人と自然が共存し 安心して暮らせるまち



甲子小学校水生生物調査

豊かな自然環境を保全し、環境負荷を低減する暮らしや事業活動を営み、再生可能エネルギーの地産地消を推進します。また、安全で安心して暮らせる社会の実現に向け、地域公共交通の利便性向上、交通事故の抑止対策の推進、空家等の適正管理と有効活用を図るとともに、道路や河川、住宅や公園、上下水道などの生活インフラを計画的に整備・維持管理し、「人と自然が共存し安心して暮らせるまち」を築きます。

◆ ◆ ◆ 重点施策 ◆ ◆ ◆

地域の特性を踏まえた 持続可能な交通体系の構築

市民の日常生活における移動実態・ニーズの変化に対応しながら、持続可能な交通体系の構築に向け、行政、交通事業者のみならず、企業や市民等と一体となった運営体制を検討していきます。

快適に暮らし自然と共存するまちづくり

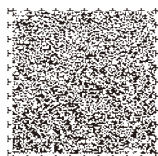
- 人と自然が共生する環境づくりの推進
- 地球環境に配慮したまちづくりの推進

快適で安心・安全なまちづくり

- 犯罪や事故のない地域づくりの推進
- 消費者保護の強化
- 持続可能な交通体系の整備
- 交通安全の確保

生活基盤が充実したまちづくり

- 安全で快適な生活環境の整備
- 水道水の安定的で健全な供給
- 下水道施設の適切な維持管理と整備推進
- 上下水道の経営基盤の強化





第3章 〈産業雇用〉

未来をつくる 人と産業が育つまち

地域や企業のニーズを勘案しながら土地の有効活用を図り、企業誘致や地元企業への支援などを通じて雇用を創出するとともに、事業承継の支援や商工業者の人材育成等を関係機関と連携して推進します。また、魚のまち「かまいし」復活に向けた取組の推進や魅力ある農林業の創出とともに、地理的優位性を生かした釜石港の流通拠点化、観光を含めた産業間の連携を推進し、地域産業全般の活性化を図り「未来をつくる人と産業が育つまち」を築きます。



ガントリークレーンによるコンテナの荷揚げ

効率的な土地利用

○適正な土地利用の推進

商工業の振興と新たな産業の創出

○商工業の振興と企業誘致による雇用の創出
○起業・創業支援と新事業の創出

釜石港の流通拠点化

○釜石港の利用拡大と機能強化

水産・農林業の振興

○魚のまち「かまいし」復活に向けた取組の推進
○魅力ある農林業の創出と地域の活性化

観光振興と交流人口の拡大

○稼ぐ力を高める戦略的な観光地域づくりと滞在交流型観光の推進
○釜石の強みを生かした国内外の交流の拡大

移住定住の推進と雇用の確保

○労働力確保と定着のための支援
○U・Iターンの強化

◆ ◆ ◆ 重点施策 ◆ ◆ ◆

あらゆる産業の人材育成と 多様な働き方の推進

一次産業の担い手の確保・育成や商工業者の人材育成に向けた取組の推進により地域産業の活性化を図るとともに、テレワークやワーケーションなど多様な働き方ができる職場づくりを推進します。

新たな分野への挑戦と 国際貿易を通じた未来産業の集積

新産業創出に向けた取組や地域企業の新分野への挑戦を支援するとともに、高規格道路ネットワークと釜石港という地理的優位性を生かした企業誘致により、物流関連産業や輸出産業等の集積を図ります。

三陸・釜石の 特色を生かした観光振興

釜石オープン・フィールド・ミュージアム構想の推進を図り、市民の参加性を高め一体感を醸成し、「地域の宝」を再発見する過程を通じて、市民に「住まう誇り」を呼び戻すとともに、滞在交流型観光システムを推進していきます。





第4章 〈教育文化〉

地域と人のつながりの中で みんなが育つまち



釜石市小学校対抗ラグビー大会

未来を担う子どもたちが生き生きと元気に学ぶことができるよう、教育環境の充実と更なる向上を図ります。家庭・学校・地域の連携により、地域づくりに寄与する特色ある教育活動を推進するとともに、防災教育を核とした「いのちの教育」やラグビー、世界遺産・橋野鉄鉱山など、歴史・文化を通じた郷土愛の醸成により、次代を担う人材を育みます。また、子どもから高齢者まで、全ての世代でスポーツや芸術・文化に親しむことができ、生涯を通じて学ぶことができる環境を整えることにより「地域と人のつながりの中でみんなが育つまち」を築きます。

未来を担う子どもたちの育成

- 健やかな成長を図る幼児教育の充実
- 生きる力を育む学校教育の充実

子どもを育む環境づくり

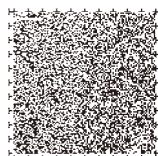
- 地域づくりに寄与する特色ある教育活動の推進
- 教育環境の充実とさらなる向上

生涯学習・スポーツの振興

- 学びと実践が循環しつながりを創出する生涯学習社会の形成
- 豊かな生活と新たな価値を生み出すスポーツの推進

歴史・文化・芸術文化の振興

- 歴史・文化の継承と文化財の普及・啓発の推進
- 橋野鉄鉱山の保存・整備・活用と鉄の歴史・文化の発信
- 芸術文化活動の推進



◆ ◆ ◆ 重点施策 ◆ ◆ ◆

ICT、オンラインなどを 活用した学びの多様性の実現

生涯学習や各種講義、学校教育などあらゆる分野において、オンライン等を活用した多様な学びの環境を整え、全ての人がライフステージに応じて学ぶことができる環境の構築を目指します。

釜石らしさを生かした 育ちのデザイン

防災教育を核とした「いのちの教育」やラグビー、世界遺産・橋野鉄鉱山を含めた釜石市の歴史・文化などを通じて子どもたちの郷土愛を醸成し、釜石の発展を支える次代の人材を育成します。

「ラグビーのまち釜石」の推進

ラグビーワールドカップ2019™日本大会岩手・釜石開催のレガシーを未来に継承するため、子どもたちへのラグビーの普及、選手やクラブの育成強化、釜石鶴住居復興スタジアムの有効活用など、ラグビーを生かしたまちづくりを推進していきます。



第5章 〈危機対応〉

過去に学び みんなが命を守れるまち



鵜住居小学校・釜石東中学校合同下校時津波避難訓練

自然災害に備え、実践的な防災訓練の実施や防災に関する学習機会を提供し、防災意識の醸成を図るとともに、自主防災組織、消防団、防災士等の連携、協力体制を構築充実させることにより、地域防災力の向上に努めます。また、安全性の向上に向けた施設整備、避難経路や避難場所の整備、避難環境の整備など、多重防御による防災・減災対策を図ることにより「過去に学びみんなが命を守れるまち」を築きます。

防災意識の向上

○迅速かつ確実な避難行動を行える防災意識の醸成

地域防災力の向上

○地域防災機能の充実

多重防御による防災・減災対策

○施設整備等による安全性の向上
○ソフト対策を加えた多重防御

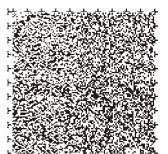


放水訓練

◆ ◆ ◆ 重点施策 ◆ ◆ ◆

自助・共助・公助による 防災まちづくりの推進

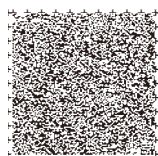
市民一人ひとりが命の尊さについて考え、行動できるように、地域防災力の向上に向け、防災リーダーとして期待される防災士の養成を継続するとともに、防災意識の醸成と災害に対する知識の向上に努めます。



釜石市が目指すまち

総合計画の達成度合いを判断するため、令和7年度及び令和12年度を目標年次とした施策の成果指標を設定しています。成果指標とは、計画の実現に向けた様々な取組に対する目標を、数値で分かりやすく示したものです。

	成 果 指 標	現状値	目標値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
第1部 計画の推進	現在、まちづくり活動に参加している割合	48.4% (令和元年7月)	55.0%	63.4%
	市内在住外国人が釜石での生活に対して満足と感じている割合	55.7% (令和2年度)	65.0%	70.0%
	経常収支比率	99.8% (令和元年度)	93.5%	91.7%
	実質公債費比率	14.6% (令和元年度)	8.8%	8.8%
	定員管理による適正な人員確保	439人 (令和元年度)	370人	345人
	女性管理職比率	19.0% (令和元年度)	25.0%	30.0%
第2部 第1章 保健福祉	男女別育児休業取得率	男性 0.0% 女性 100.0% (令和元年度)	男性 10.0% 女性 100.0%	男性 15.0% 女性 100.0%
	1.6歳児健診受診率	88.3% (平成29年度)	100.0%	100.0%
	3.6歳児健診受診率	88.9% (平成29年度)	100.0%	100.0%
	合計特殊出生率(過去5年間の平均値を用いて算出したもの)	1.63 (平成30年度)	1.63	1.63
	脳血管疾患による年齢調整死亡率	52.5 (平成29年度)	46.0	40.9
	特定健診受診率	37.1% (令和元年度)	50.0%	60.0%
	第1号被保険者の要支援・要介護認定率(合計認定率)	20.1% (令和元年度)	19.6%	19.2%
	通いの場やボランティア活動に週1回以上参加している人の割合	13.2% (令和元年度)	20.3%	26.3%
第2部 第2章 生活環境	家族や友人、地域との交流がない人の割合	4.2% (令和元年度)	3.5%	3.0%
	市民一人1日当たりのごみ排出量	1,108g (令和元年度)	1,042g	992g
	近隣住民等から相談や情報提供があった適正管理が行われていない空家等の件数	36/983件 (令和3年1月)	25件	0件
	日常生活のためのバス、鉄道などの公共交通に対する満足度	10.0% (令和2年10月)	15.0%	20.0%
	有収率	78.0% (令和元年度)	82.0%	85.0%
	汚水処理人口普及率	80.2% (令和元年度)	84.4%	87.7%
	市道改良率	59.3% (平成31年4月1日)	59.5%	59.7%
	市道舗装率	53.4% (平成31年4月1日)	53.8%	54.2%
	市道の歩道設置延長	29,659m (平成31年4月1日)	30,600m	31,600m

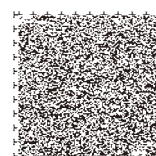


第2部 第3章 産業雇用

成 果 指 標		現状値	目標値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
地籍調査事業の進捗率		67.6% (令和元年度)	▶ 77.2%	84.6%
商品販売額		901 億円/年 (平成28年)	▶ 900 億円/年	900 億円/年
製造品出荷額		1,296 億円/年 (平成30年)	▶ 1,300 億円/年	1,350 億円/年
釜石港コンテナ貨物取扱量		9,292TEU/年 (令和元年度)	▶ 20,000 TEU/年	35,000 TEU/年
RORO船定期航路便数		0 便/週 (令和元年度)	▶ 1 便/不定期	1 便/週
漁業所得金額（組合員一人当たり）		682 千円/人 (平成26～30 年の最大小年を 除いた平均値)	▶ 781 千円/人	848 千円/人
農業産出額		370 百万円 (平成30年度)	▶ 370 百万円	370 百万円
森林経営管理権集積計画策定済み面積		0 ha (令和2年度)	▶ 900 ha	1,900 ha
シカ捕獲頭数		1,282 頭/年 (令和元年度)	▶ 1,450 頭/年	1,600 頭/年
観光入込客数		911 千人回 (令和元年度)	▶ 670 千人回	910 千人回
市内ホテル・旅館別宿泊施設入込客数		169 千人泊 (令和元年度)	▶ 115 千人泊	149 千人泊
釜石公共職業安定所管内の有効求人倍率		0.75 倍 (令和2年3月)	▶ 1.00 倍	1.00 倍
転入者数		965 人 (令和元年度)	▶ 1,024 人	1,024 人
5歳児の育ちを促す共通の指導指針に基づいた取組を行っている園の割合		76.9% (令和元年度)	▶ 100.0%	100.0%
「自分にはよいところがあると思っている (自己肯定感を持っている) 児童生徒（積極的肯定）」の割合	小学生	28.0% (平成31年4月)	▶ 35.0%	40.0%
	中学生	14.0% (平成31年4月)	▶ 25.0%	30.0%
市内小中学生が「自分の住む地域や社会をよくするために、何をすべきか考えたことがある（積極肯定）」と回答した割合	小学生	21.0% (令和元年10月)	▶ 25.0%	25.0%
	中学生	18.0% (令和元年10月)	▶ 25.0%	30.0%
市民一人当たりの公民館施設利用回数		2.25 回 (令和元年度)	▶ 2.25 回	2.25 回
スポーツ合宿誘致団体数		0 団体 (令和元年度)	▶ 13 団体	15 団体
市民一人当たりの体育施設利用回数		4.21 回 (令和元年度)	▶ 4.50 回	5.00 回
市民一人当たりの健康づくり教室利用回数		0.26 回 (令和元年度)	▶ 0.30 回	0.40 回
釜石市橋野鉄鉱山インフォメーションセンター・釜石市立鉄の歴史館・旧釜石鉱山事務所・釜石市郷土資料館の来訪者総数		30,059 人 (平成29～令和 元年度の平均)	▶ 31,470 人	32,967 人
市内の郷土芸能活動団体数		43 団体 (令和元年度)	▶ 43 団体	43 団体
市民一人あたりの市民ホール利用回数		3.5 回 (平成30年度)	▶ 3.8 回	4.2 回
「釜石市防災市民憲章」について、聞いたことがあり意味も理解している割合		25.1% (令和元年7月)	▶ 40.0%	50.0%
行政が主催する防災講演会や防災活動へ参加している割合		22.7% (令和元年7月)	▶ 40.0%	50.0%
自主防災組織の組織数		45 組織 (令和2年12月1日)	▶ 60 組織	70 組織
20～39歳の消防団員の割合		26.8% (令和2年4月1日)	▶ 30.0%	33.0%
行政が指定している避難場所を確認している割合		77.1% (令和元年7月)	▶ 90.0%	100.0%
釜石市の災害情報メールサービスへの登録		6,423 件 (令和2年8月15日)	▶ 12,000 件	15,000 件

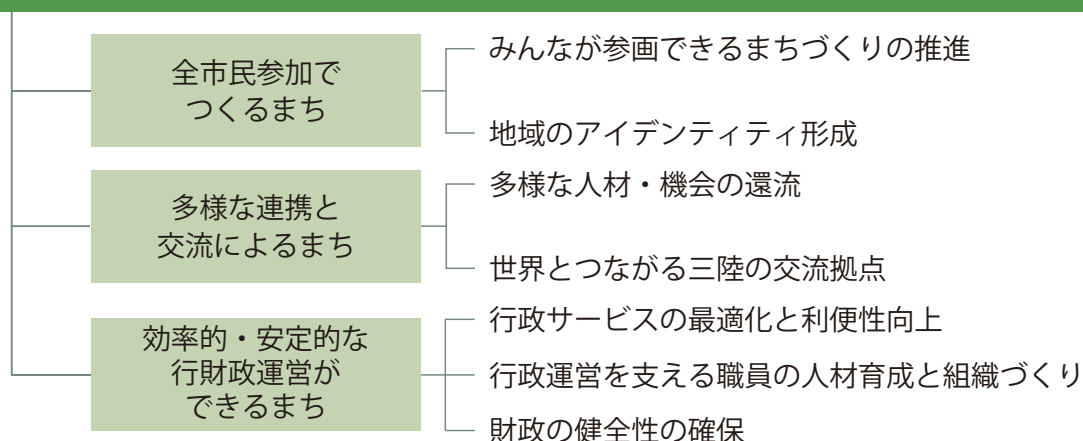
第2部 第4章 教育文化

第2部 第5章 危機対応



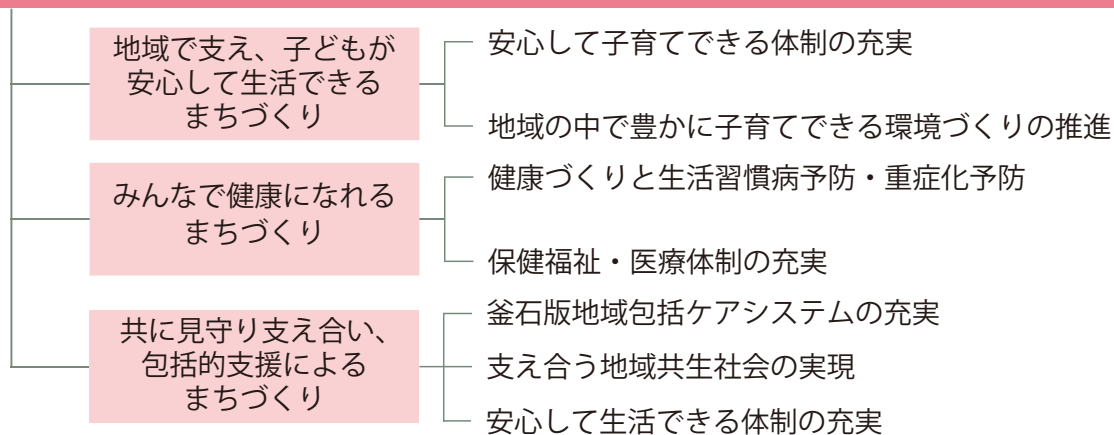
体系図

第1部 計画の推進

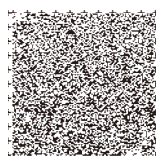
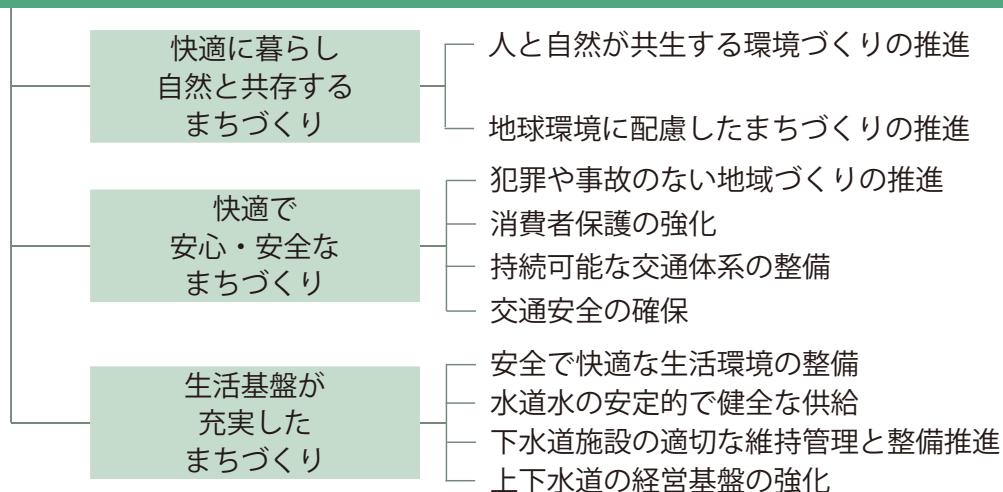


第2部 基本目標ごとの施策

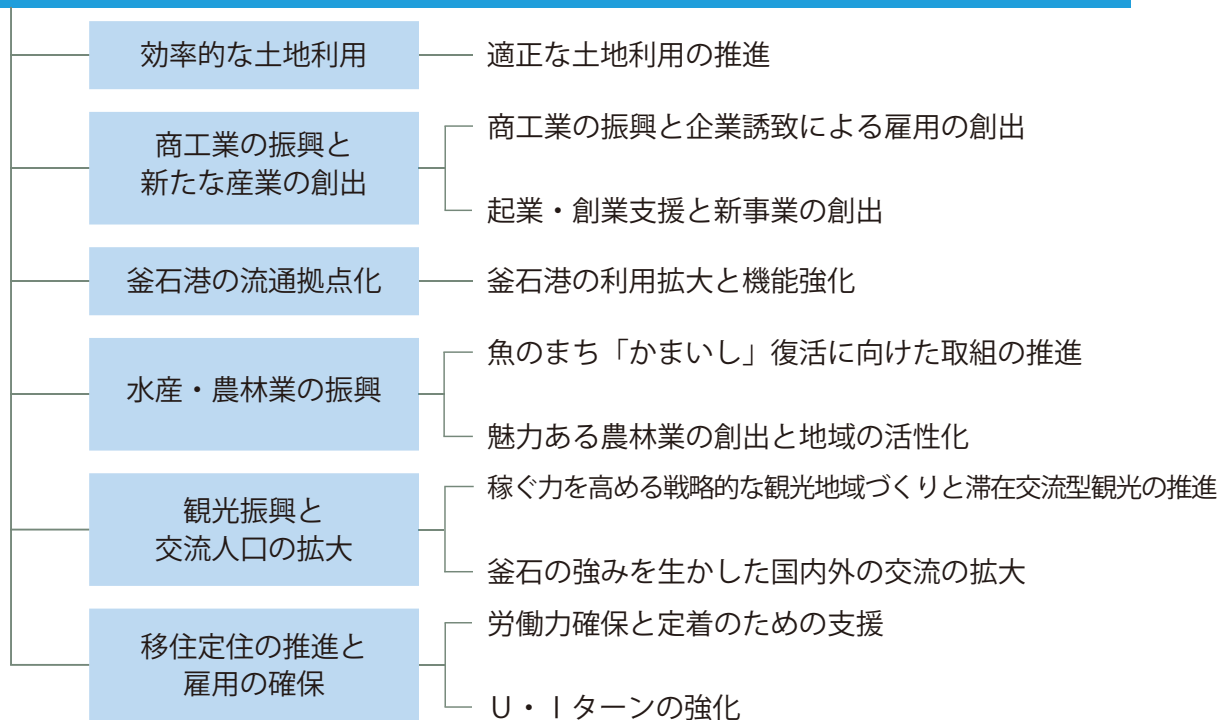
第1章〈保健福祉〉あらゆる人の幸せをみんなで考えつくるまち



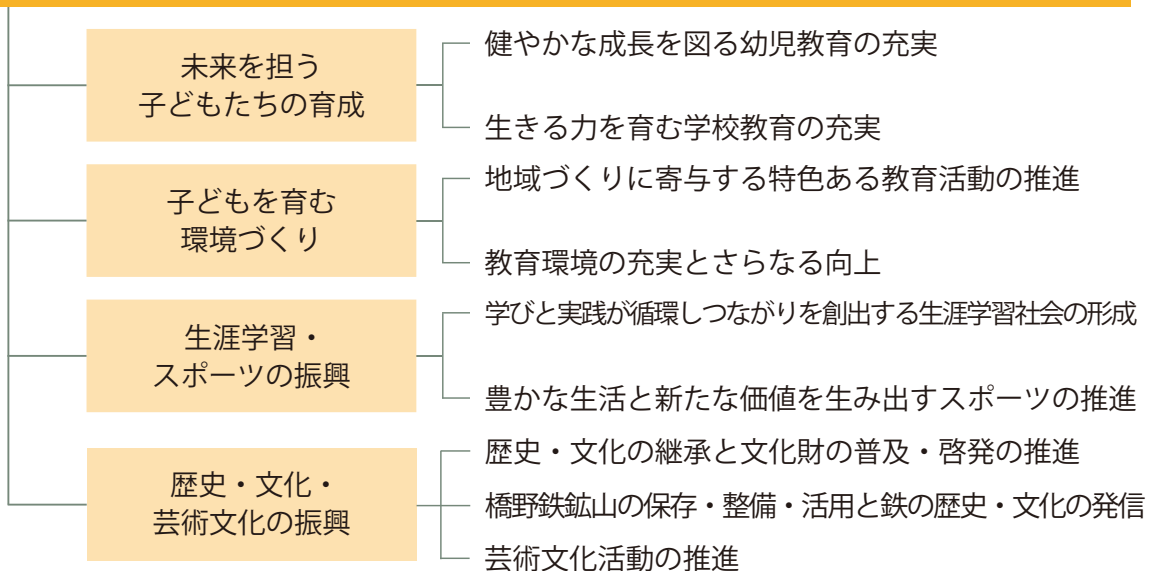
第2章〈生活環境〉人と自然が共存し安心して暮らせるまち



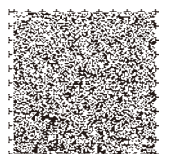
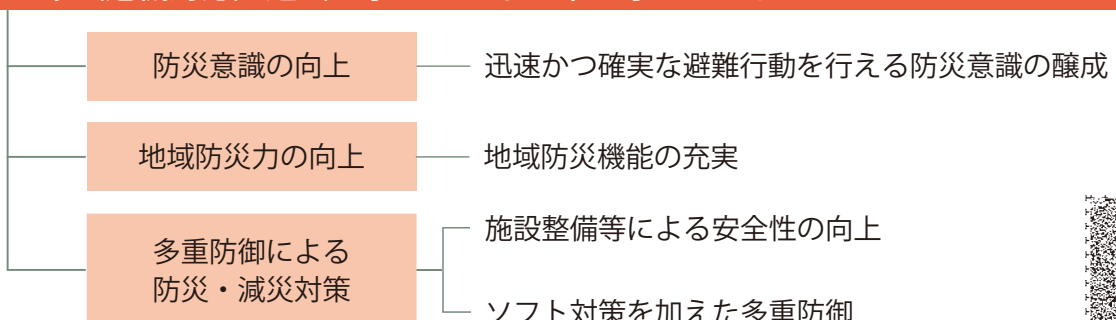
第3章〈産業雇用〉未来をつくる人と産業が育つまち



第4章〈教育文化〉地域と人のつながりの中でみんなが育つまち



第5章〈危機対応〉過去に学びみんなが命を守れるまち





第六次 釜石市総合計画 概要版

【発行】

釜石市総務企画部総合政策課
岩手県釜石市只越町3丁目9番13号

